

ラインの向こう側

～ 留置所体験記 その7 ～

茶ーリトル(ペンネーム)

前回のあらすじ

友達2人と服を盗み逮捕された。僕は20歳で、あとは未成年。僕だけ違う場所に連れて行かれ、留置場生活が始まった。

手錠にひもを通され、ワゴンバスに乗っけられて警察の留置場を出発し、東京地検へ。結果は10日間拘留。でも僕は、大切な人たちの顔を思い出し、この結果を真から受け止められた……。

そこで翌日、僕は裁判所へ。昨日行った東京地検の真横にあるんだ。裁判所の椅子は、昨日の木の椅子とは違って、う～ん、なんていうのかな～、球場のプラスチック製の青い椅子みたいなやつなんだ。それが、一つの部屋にいっぱい並べてあって、その一つ一つに僕らは座るんだ。やっぱ、昨日の木の椅子に比べりゃ俄然座りやすかったね！

昨日とほとんど変わらぬ時間座ってなきゃいけないんだけど、やっぱり幾分楽だった。ただ、昼ごはんの時は、両手錠のまま食べなきゃならなくて、そんな時は昨日よりも苦労したけどさ、でもね、この日は昨日みたいに不安に駆り立てられる事はなかったんだ。たぶん、僕の心の中で、一時の決意、っていうか、気持ちの整理みたいなものがついたからかもしれない。

段取りも進行の仕方、ほとんど昨日と変わらない。何人かずつ呼ばれて、それ以外の人はずっと待ってなきゃいけないのさ。だから、この日も僕は、ほとんどzzz。

やがて、名前の呼ばれた僕は、別の部屋へ移動。そこで裁判官のおじさんに、昨日と全く同じ、事件概要の確認のみ行われた。一つの机をはさんで向き合って座るんだ。

そこで、おじさんは確認をとりながら、ノートみたいなやつに色々メモしてた。「ラインをはみ出した野郎！ 窃盗野郎！ てやんでい！」

帰りのワゴンバス。昨日と時間もほぼ同じく、夕方街、東京。この日は、やたらと自動販売機に目がいつてしまった。なんでだろう？ 自分でもよく分からない。ただ、道沿いにポンと置かれている、何台も置かれている様が、妙に僕の興味をそそったんだ。いや、異状にさえ思えた。喜怒哀楽、幸せ不幸せ、そんな感情の世界じゃなかった。なんだかSFの世界みたい。理解不能な矛盾が生じた。「お金？ 120円？ それで飲料が手にはいるの？ (笑)」キューブリックの映画の世界に飛び込んでしまったのか？

そう、前日、東京地検に向かう際に、窓の向こうに写る「当然のあたりまえ」にショックを受けたのに類似する。ただ、決定的に違う事がある。感傷的だった前の時に比べて、この時は、そんな感情は皆無だった。不思議と笑いさえ込み上げてくるんだ！ それと同時に寒気もしたぐらいだ。

裁判所でもそうだった様に、10日拘留を受け止めた分、安心じゃないけど、多少落ち着いたから、前回のような悲しい気持ちにならなかったのかもしれないけど、自分自身に異状さえ感じて、逆に不安になったよ。

・ ・ ・ ・ ・

そんな不安な気持ちをよそに、僕らを載せたワゴンバスは警察署へ到着。もう夕食の時間も過ぎているから、僕ら搬送組だけは別の部屋でディナータイム。もちろん、お巡りさんの監視下でね。この時は、なんか本当に嫌だったな。逮捕されるから当然っちゃあ当然だけどさ、ご飯食べてるのをまじまじと見られるってのは、ホントにいい気がしないんだぜ。なんか、食べる訓練をしているみたい。食べ方講義！ How to eating！

・ ・ ・ ・ ・

授業を終えて、僕は檻へ無事帰還。この日は、ゆうじさんらと色々会話した。就寝の準備までの間、色々話した。ゆうじさんと連さんは、けっこう前にここへ来ていて、現在、10日拘留がさらに延長して、20日拘留に突入しているとのこと。にんにんさんは、僕より何日か前にここへ来ていて、現在、僕と同じ10日拘留中。みんなそれぞれが色んな理由で捕まってこの檻の中。捕まる前の生活はもちろんバラバラ。これまで、僕らの人生が交錯した事はないだろう。バイトしてバンドやってる人、ヤクザやってる人、サラリーマン。ね？関わる事なんかなさそうでしょ？ そんな人達が今、1つの檻の中。

(つづく・・・)